

平蕃城

き、或は水車を設くる處多し。

一種の傷風

平蕃城ピンファンは滿城滿州旗人のみ住す漢城に分れ、相距る約二千米突、人家合せて約七百、漢城には、縣衙門、協臺衙門の設け有るも、一の學堂なく、宗教亦耶蘇、回々兩教共皆無なり、此地產物と稱すべきもの無きに因り、商業振はず、窮民多し。此處は寒氣酷烈の地なるに拘らず、土民の毛衣を着るもの稀に、一般唯々綿入の袴を以て凌ぎ、小兒も往々褲を穿たざる者を見たり。聞く一種の傷風病ありて、凍死するものありと蓋し、着衣の薄きに因るならん乎。飲料水は河水を用ひて其質好良、人情最も質朴なり。

防寒準備の不足を感ず

翌二十一日寒氣益々酷烈、寒溫計九度を示すに至り、金屬物凍結して、之に觸るれば直に凍傷を起す。是に於てか更に防寒準備の必要を感じ、爲めに一日滞在せり。二十二日依然金羗河畔を溯行す寒氣は日出時に於て九度なりしも午後二時に至れば二十四度を示せり。其の差異亦甚しと謂ふべし。松樹村スシユ、深溝シンコウ、ポーホ、ハンチユランを過ぐれば、忽ち前途に一小坡あり、下坡直に清水河驛ウシヤンに到る。次で武勝驛フーチャン、伏羗フーチャン、小馬營インウオ、鶯窩山等を経て、行程我十里、岔口驛チャカオに入る。